

# 中学校 A 学習カードを活用した授業展開の提案

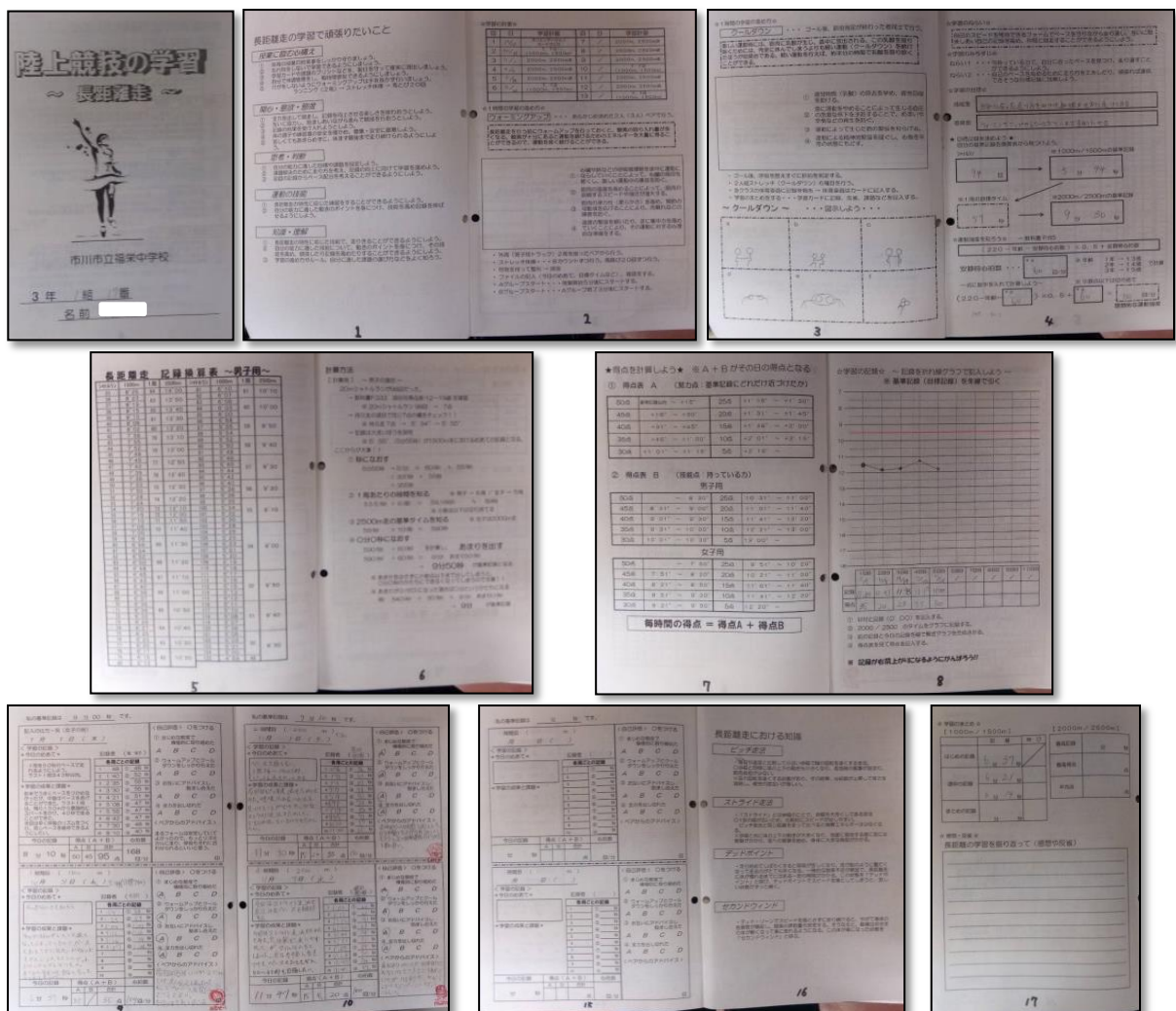
森田 勇輝 (千葉)      澤村 雅司 (船橋)      大西 耕平 (市川・浦安)  
石原 健吾 (松戸)      志藤 祐介 (習志野)      荒木 翼 (八千代)

## 1 はじめに

本グループでは、平成33年度より全面実施となる新学習指導要領の内容の中の「主体的・対話的な深い学び」という学びを中学校の保健体育の学習でどう実現できるかということ話し合い、学習カードの活用の仕方を再考することに焦点を当て、研究することとした。学習カードについて話し合いを進めていく中で、同じ千葉県の中でも地域によっても取り組みに差があったり、地域の中でも学校ごとに差があったりすることがわかった。今回の研究では、2つの違った形式での学習カードの実践をし、研究することとした。

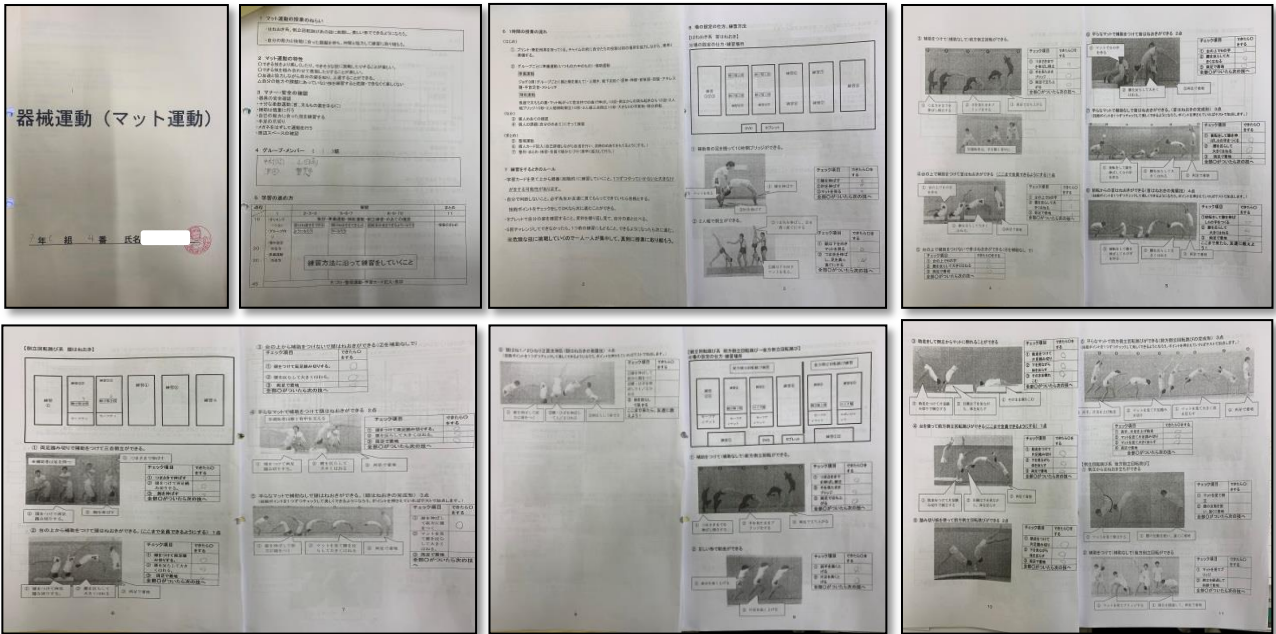
## 2 実践例

### (1) A. 書きやすさ特化型

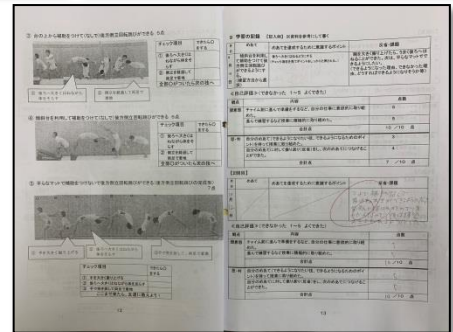


通年通して同じ形式の学習カード(冊子)を用意することによって、どう書いて良いかという迷いがなく書くことができる。学習の進め方や多少の知識理解も載せている。また、単元によっては調べ学習をするように、「言葉+空欄」というようなものを用意したこともあった。また、毎時間のめあてや成果と課題を書くページの右下の部分は単元によって変えてあり、「次時への課題」「ペアからのアドバイス」「チームの課題」を書く欄を準備し、行いたい学習に準じたものとした。

(2) B. 知識・手立て特化型



学習カードに、単元計画、1時間の授業の流れ、場の設定の仕方、技能の資料を載せた。生徒が学習カードを見て、自分のやるべきことがわかるようになっていたため、スムーズに授業を行うことができた。また、技能の資料は、段階的に進むようになっており、しっかりと個人のためを持って、授業に取り組むことができていた。



3 メリット・デメリット  
A. 書きやすさ特化型

- (メ)・わかりやすい ・パッと見てどこに何を書けばいいかわかる
- (デ)・知識特化型に比べ、知識の部分が少ない ・冊子を作る手間がかかる

B. 知識・手立て特化型

- (メ)・めあてを持ちやすく、段階を踏んで練習を行いやすい。
- (デ)・資料を探すのに時間がかかる。・冊子を作る手間がかかる。

4 おわりに

(1) 成果 (○) と課題 (△)

- 生徒の思考・表現が見とれるようになり、どういうことを考えて活動しているのかが具体的にわかった。
- 知識理解のページを載せることにより、学習カードを見れば、どのようなことがポイントなのかわかり、主体的に学習に取り組んでいた。
- ポイントを書くことにより、ペアでのアドバイスにも使用することができ有効的であった。
- △ページ数が多くなり過ぎるあまり、資料がわかりづらくなる単元があった。
- △冊子にすることにより、1枚の紙で書かせるものより、点検に時間がかかってしまう。

(2) 今後の方向性

学習カードを使うということにより、プラスの面が大きいと考えるが、どのようなものまで載せていかなど、資料を精査していく必要があると感じた。また、生徒の実態によって学習カードも変化していかなくてはいけない部分があるので、その都度点検していく必要がある。学習カードに正解はないので、試行錯誤を繰り返しながら、生徒に合ったもの、また自分の授業展開に合ったものを選び、作成していく必要がある。